



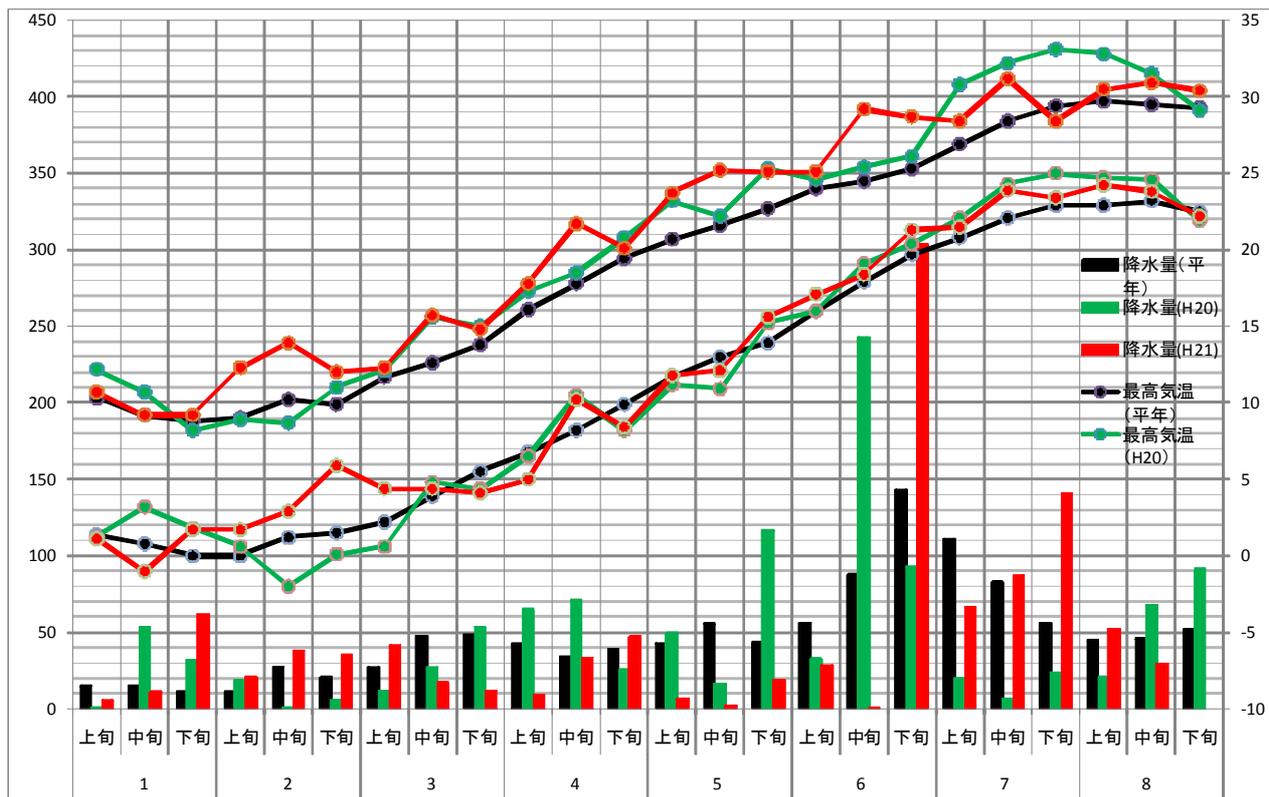
【東部振興局管内】 椎茸普及指導情報 第17号

朝夕は涼しくなり、シイタケ栽培作業も本格的シーズンに入ります。
シイタケの発生に向け、万全な栽培管理を実施しましょう。

1 本年度植菌分の状況について

3月中旬から6月中旬までは少雨が続きましたが、6月下旬(6/29)から8月上旬にかけては逆に多雨になりました。

次のグラフは、本年次の杵築市(標高5m)における降水量と最高最低気温の推移です。



定点をとって植菌分の調査をしています、その中から今年の傾向について写真でご説明します。

・・・調査地点の概要は次のとおりです。・・・

調査場所 別府市(標高400m程度)

作業時期 植菌3月完了、仮伏4月下旬完了。



←これは5月下旬時点です。
駒は生きているものの、駒半分程度は
枯死していました。
活着が危惧されました。



←これは、その後1月半経過した7月中旬の状況です。

6月下旬以降の降雨があり、活着し、伸長が進んでいるのがわかると思います。

しかし、断面伸長では、1～2cm程度でした。

また、全般的な傾向としては、乾性害菌であるシトネタケが多く見られました。

それでは、昨年の同時期はどうだったのでしょうか。



←これは同じ生産者の昨年の状況です。調査場所、作業時期とも同じ程度のものですが上の写真と比べてみると違いはよくわかると思います。

ちなみに断面伸長では、10cm程度進んでいました。

皆さんの栽培場所、作業時期ごとに違いはあると思いますが。通常の管理でもこの程度の違いが出ていました。

また、確実にほだ化させるためのポイントは、接種作業が遅れないこと、仮伏等により確実に活着、しっかり笠置をかけることだと思います。

これからは、暑かった夏から過ごし

やすい気温の時期をむかえ、シイタケ菌によるほだ木の材腐朽が進む時期です。ほだ木の菌糸伸長状況と害菌の発生状況を観察し、適正な通風管理や庇陰調整を行ないましょう。

2 古ほだの整理と環境整備について

古ほだを整理し、害虫、害菌の発生防止のためにも可能な限りほだ場外に廃棄しましょう。

暗いほだ場は、枝打ちや間伐を実施し光、温度、降雨を得やすい条件に改善しましょう。

◎天地返しとほだ木回し

作柄の安定を図るため、ほだ木の天地返しやほだ回しを必ず行いましょう。

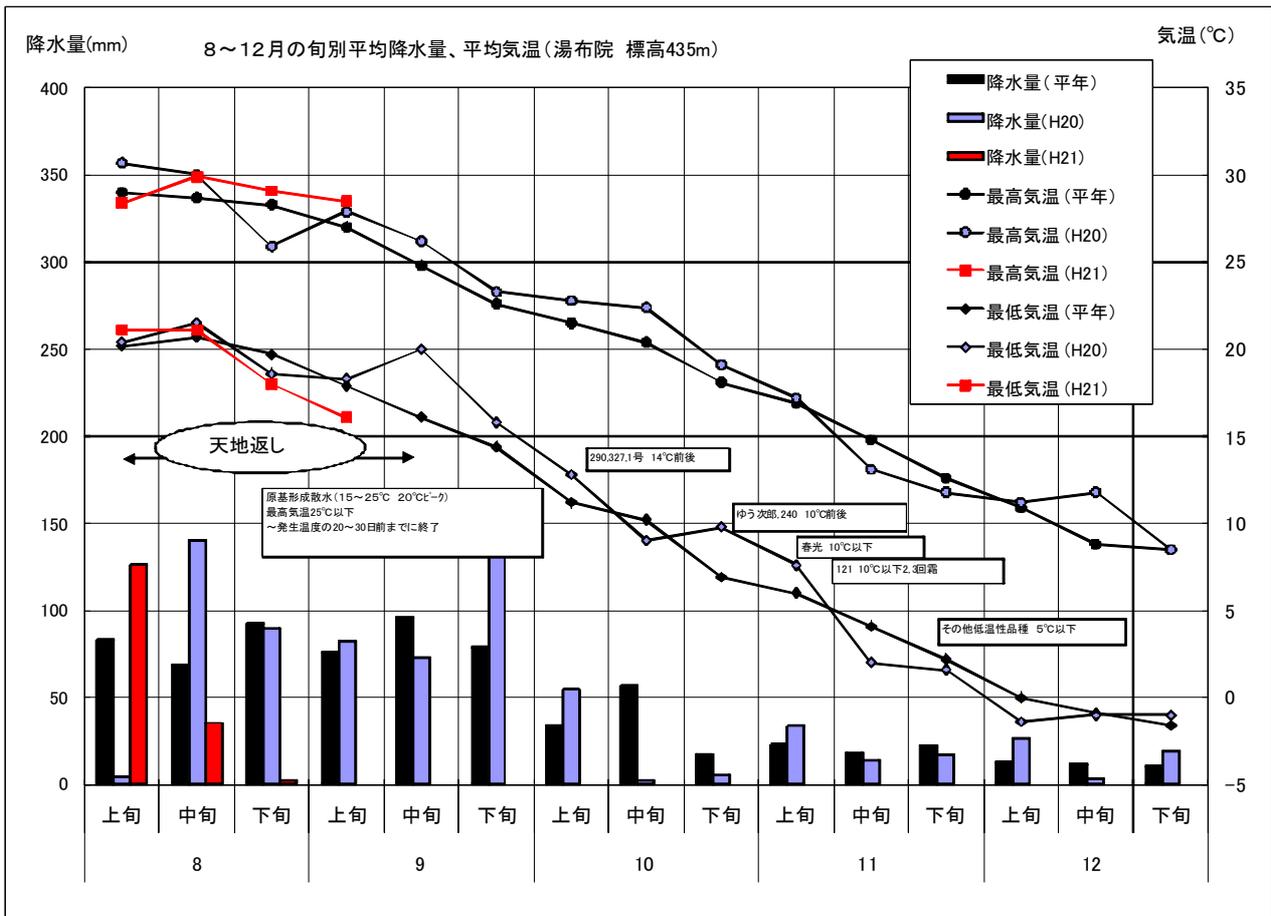
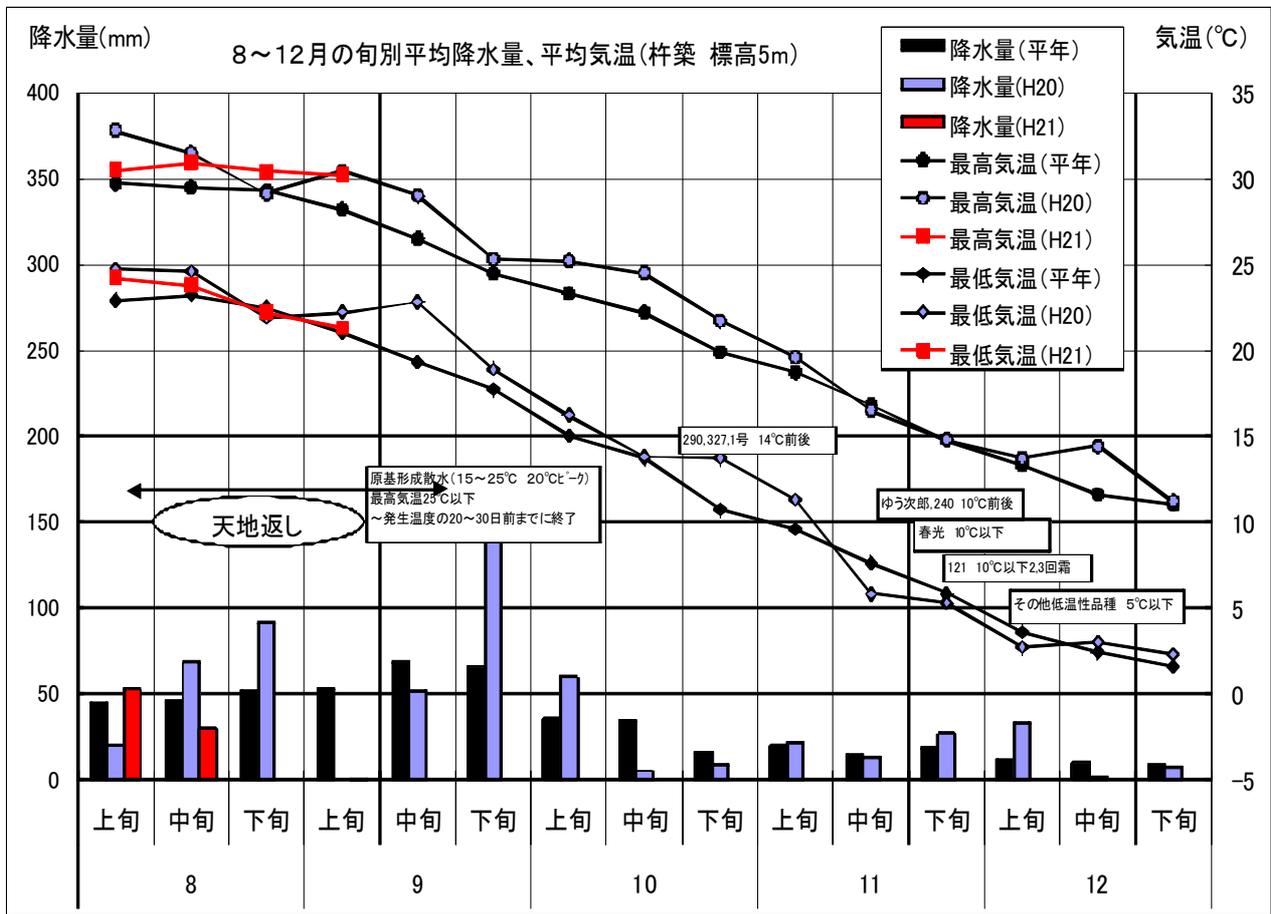
◎ほだ木への水分補給

散水、ほだ倒し、ナタ目・クギ目入れなどで、ほだ木に水分補給を行い、原基形成にむけた条件を整えよう。

- ・ほだ木が古くなるほど水分は多く必要です。
- ・水分補給は内樹皮部分がオレンジ色に変わる程度を目安とする。
- ・散水時間の目安は、1才ほだ木：24時間以上、2才ほだ木：48時間以上、3才ほだ木：72時間以上
- ・1回当たり12時間～24時間を目安に7～10日おきに3～4回
- ・水量が少ない場合は、間欠散水で実施する。

3 起こし木の時期について

ほだ起しに際しては、作業中にほだ木を長時間直射日光に当てないように注意が必要です。最低気温の変化に注意し品種に応じてほだ起しの時期を決定しましょう。平年値と昨年及び今年9月上旬までの最低・最高気温、降水量の推移です。



大分県東部振興局生産流通部
 野菜・椎茸班 担当 栗林(国東市エリア)
 河野(別府市・杵築市・日出町エリア)
 TEL 0978-72-1141 FAX0978-72-1242